

2023年11月22日（水）都議会内集会趣旨文

『滝山病院事件を放置しない！ 入院者の地域移行をすすめよう！ 都議会内集会』

東京都八王子市の滝山病院で暴行虐待事件が発覚してから、9ヶ月が経ちます。この間、東京都は東京精神保健福祉士協会の協力を得ながら、滝山病院入院患者への意向調査と、退院・転院を希望した方に対する転院調整を行ってきました。しかし、人員体制及び個々の入院患者に対するアセスメント不足等により、個別の転院調整は未だ半ばという状況が続いています。

他方で、東京都内各市区町村において滝山病院入院患者の地域移行を支援する動きが広がっているとはいえません。東京都には今後、管下精神科病院である滝山病院への指導監督と、同院からの退院・転院支援という課題に対する全都的な取り組みを、強く推進することが求められます。

本来、精神科病院に入院している方への支援は、市区町村が基幹相談支援センターや相談支援事業所等と協働で行うことです。滝山病院については、本年5月に意向調査が終了した段階で、東京都が市区町村に依頼してその取り組みを開始することができたはずでした。

今こそ、滝山病院入院患者の地域移行をすすめるために、市区町村行政と地域の支援者が協力体制を組んで、退院・転院を希望される本人に会いに滝山病院を訪問することが求められます。そのために東京都は、各市区町村へ個別支援の依頼と情報提供を全都規模で行う必要があります。これは、決して特別な活動ではありません。東京都が2004年に退院促進支援事業を始めて以降、今日まで都内のほとんどの精神科病院で行われてきたことです。

滝山病院は、これまで東京都の事業の協力病院になったことが一度もなく、入院患者の支援を地域に向けて依頼することがまったくない病院でした。今回の事件を契機に、東京の精神科医療における〈特異点〉ともいべきこの滝山病院のあり方を打破しなければ、本当の意味で滝山病院事件を解決することにはならないのです。

今まで滝山病院は、「入れたらそれで終わり」という場所でした。私たちは長年そのことを知っていながら、手出しできずに放置してしまい、その結果、滝山病院には入院患者への暴行虐待と不適切な治療が蔓延することになりました。これまで滝山病院の存在を「必要悪」だといって黙認してきた私たちには、この問題を解決する責任があります。滝山病院事件は、自分が暮らす地域から遠く離れた山中で起きた出来事ではありません。私たち自身の日頃の取り組みの中に、この事件の遠因となるものがあつたのです。滝山病院事件は、私たちの日常から発生した事件であり、私たち皆がこの事件の「当事者」なのです。

今も滝山病院に入院している人たちの地域移行をすすめ、滝山病院事件の真の解決を目指すために、東京都に対して市区町村への情報提供を求め、私たち一人ひとりができることを見出す機会として、今回の都議会内集会を開催することにいたします。みなさんと共に、滝山病院事件に対する全都的な取り組みを作り出していきましょう。